

宮崎県感染症週報

宮崎県感染症情報センター：宮崎県健康増進課・宮崎県衛生環境研究所

□ 宮崎県第35週の発生動向

定点医療機関からの報告総数は699人（定点あたり22.0）で、前週比107%と増加した。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

前週に比べ増加した主な疾患はRSウイルス感染症で、減少した主な疾患は感染性胃腸炎とヘルパンギーナであった。

【RSウイルス感染症】

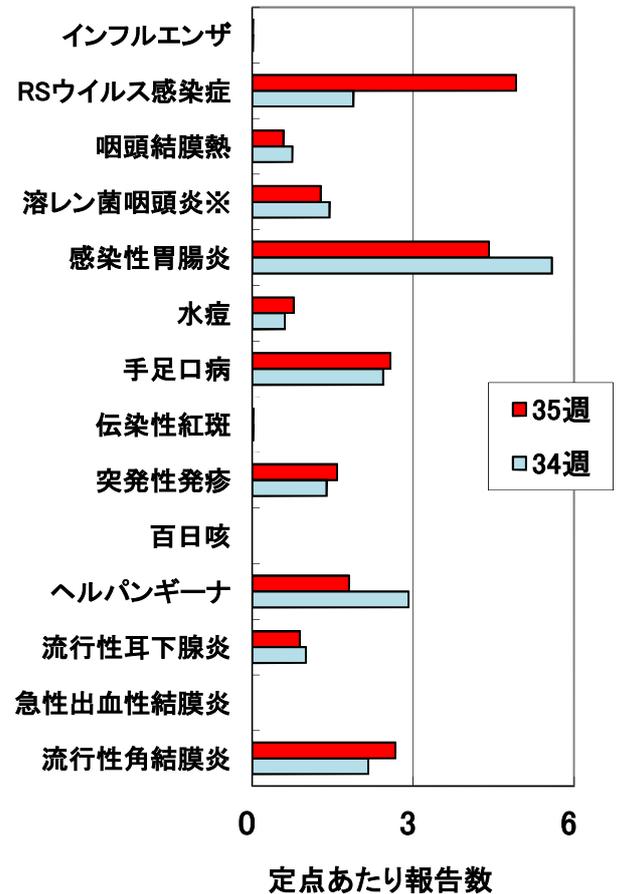
・報告数は177人（4.9）で前週比260%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値（1.1）の約4.6倍である。日向（10.3）、宮崎市（8.9）保健所からの報告が多く、年齢別では1歳未満が約3割、1歳が約4割、2歳が約2割を占めた。

※ ヘルパンギーナは、流行警報レベル終息基準値（2.0）を下回りました。

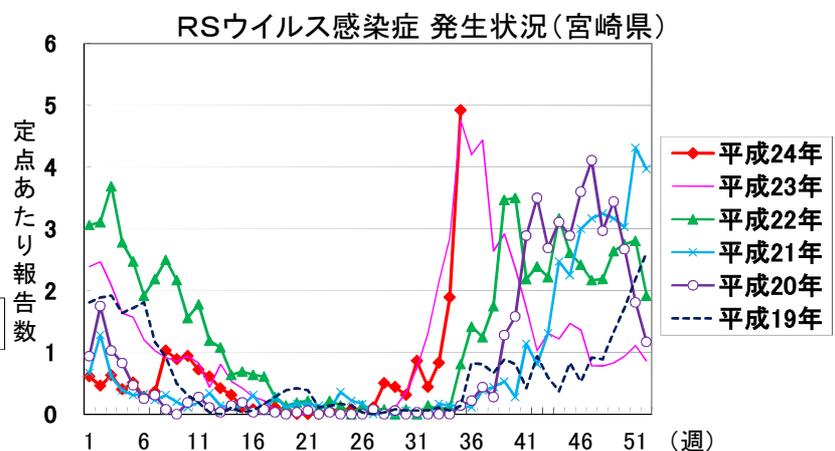
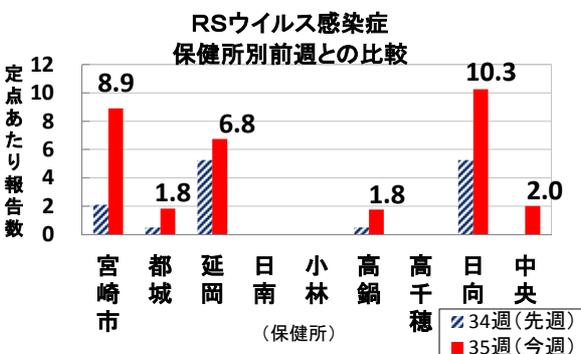
★基幹定点からの報告★

○マイコプラズマ肺炎：高鍋（2人）、延岡（1人）保健所から報告された。患者は11ヶ月、7歳、12歳。

《前週との比較》



※A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



□ 流行警報レベル開始基準値超過疾患

保健所名	流行警報レベル開始基準値超過疾患
宮崎市	なし
都城	手足口病(7.2)
延岡	なし
日南	なし
小林	なし
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	なし
中央	なし

* 流行警報レベル開始基準値*
・手足口病(5.0)

■ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
 2 類感染症 : 結核 5 例。
 3 類感染症 : 腸管出血性大腸菌感染症 5 例。
 4 類感染症 : 報告なし。
 5 類感染症 : 麻しん 1 例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	病型	症状	
2類	結核	宮崎市	40 歳代	疑似症	腹痛	
			70 歳代	肺結核	咳、痰	
			70 歳代	疑似症	発熱	
		都城	80 歳代	疑似症	咳、痰	
		日向	30 歳代	無症状病原体保有者	—	
3類	腸管出血性大腸菌感染症	宮崎市	1 歳	患者	水様性下痢、発熱	原因菌: O111、VT1 産生
			2 歳	患者	水様性下痢	原因菌: O111、VT1 産生
			2 歳	患者	水様性下痢	原因菌: O111、VT1 産生
			10 歳代	患者	腹痛、水様性下痢	原因菌: O157、VT1,2 産生
		都城	1 歳	患者	水様性下痢、血便	原因菌: O26、VT1 産生
5類	麻しん	宮崎市	30 歳代	検査診断例	発熱、咳、結膜充血、コプリック斑、発しん	ワクチン接種歴: なし

■ 全国第 34 週の発生動向

定点医療機関あたりの患者報告総数は 9.9 で、前週比 113% と増加した。今週増加した主な疾患は感染性胃腸炎と A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎で、減少した主な疾患はインフルエンザであった。

感染性胃腸炎の報告数は 9,148 人 (2.9) で、前週比 132% と増加した。大分県 (6.5)、宮崎県 (5.6)、島根県 (5.2) からの報告が多く、年齢別では 6 ヶ月から 2 歳で全体の約 4 割を占めた。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は 2,160 人 (0.69) で、前週比 121% と増加した。山口県 (2.4)、鳥取県 (1.7)、宮崎県 (1.4) からの報告が多く、年齢別では 4 歳から 6 歳が全体の約 4 割を占めた。

□ 全数把握対象疾患（全国第34週）

1類感染症	報告なし				
2類感染症	結核	352例			
3類感染症	細菌性赤痢	4例	腸管出血性大腸菌感染症	161例	腸チフス 1例
4類感染症	デング熱	8例	日本紅斑熱	6例	マラリア 3例
	レジオネラ症	7例	レプトスピラ症	1例	
5類感染症	アメーバ赤痢	8例	急性脳炎	6例	クロイツフェルトヤコブ病 3例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3例	後天性免疫不全症候群	12例	ジアルジア症 4例
	髄膜炎菌性髄膜炎	1例	梅毒	12例	破傷風 3例
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1例	風しん	73例	麻疹 9例

*腸管出血性大腸菌感染症：北海道(35例)からの報告が多い。

*風しん：大阪府(19例)、東京都(12例)からの報告が多い。

■病原体情報(宮崎県衛生環境研究所微生物部 平成24年9月4日までに検出)

□ ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取日	臨床症状	材料	検出日
コクサッキーウイルスA9型	5	女	2012.6.8	ウイルス感染に伴う汎血球減少症の疑い、出血傾向(紫斑病)	うがい液(唾液)	2012.8.23
コクサッキーウイルスA9型	19d	女	2012.6.14	細菌感染症疑い、39℃、鼻汁、咳嗽	咽頭ぬぐい液	2012.8.23
コクサッキーウイルスA9型	1	男	2012.6.14	ウイルス性発疹症、39℃、上気道炎、気管支炎	咽頭ぬぐい液	2012.8.23
単純ヘルペスウイルス1型	10M	男	2012.7.23	ヘルペス口内炎疑い、38.4℃、咽頭炎、水疱、発疹(丘疹)	咽頭ぬぐい液	2012.8.16
RSウイルス	5M	女	2012.8.14	急性細気管支炎、上気道炎、下気道炎	咽頭ぬぐい液	2012.8.15
RSウイルス	10M	男	2012.8.14	肺炎、下気道炎、39.4℃、胃腸炎	咽頭ぬぐい液	2012.8.29
RSウイルス	1M	男	2012.8.21	ウイルス感染症疑い、39.3℃、下気道炎、胃腸炎	咽頭ぬぐい液	2012.8.29
RSウイルス	1	男	2012.8.28	RSウイルス肺炎、呼吸不全、40℃、熱性痙攣、下気道炎	気管吸引液	2012.8.29
麻疹ウイルス	30歳代	女	2012.8.31	麻疹疑い、39℃、発疹、コプリック斑、咳、結膜充血	咽頭ぬぐい液、尿、血液	2012.8.31

○ 本県におけるコクサッキーウイルスA9型の検出数は2001年13件、2002年1件、2003年38件、2006年14件、2009年8件報告されている。本年は、3月に発疹症を伴った小児からも分離されている。

○ ヘルペス口内炎疑いの乳児から単純ヘルペスウイルス1型が分離された。

○ 気管支炎、下気道炎、呼吸不全などの症状を伴った乳児4人からRSウイルスが検出された。RSウイルスは乳幼児肺炎の約50%を占めており、毎年11月～翌年の1月にかけて冬季の流行が多く報告されている。

○ 麻疹疑いと診断された成人女性(海外渡航歴あり)の咽頭ぬぐい液、尿、血液から麻疹ウイルスが検出された。本県では2008年に検出されて以来、4年ぶりの検出である。また、全国の麻疹ウイルスの検出数は2012年7月末までに68件報告されている。麻疹ウイルス検出例の年齢は0歳～40代前半まで幅広く、子供も成人も注意が必要である。

□ 細菌

同定細菌名	年齢(歳)	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
<i>Salmonella</i> Manhattan(O8(O6):d:1,5)	2	女	2012.8.7	発熱(38.0℃)、下痢	便	2012.8.14
腸管出血性大腸菌(O103:HUT VT1)	2	男	2012.8.9	発熱(37.5℃)、下痢	便	2012.8.20
<i>Vibrio furnissii</i>	80歳代	男	2012.8.4	下痢	便	2012.8.15
腸管出血性大腸菌(O157:H7 VT1,2)	50歳代	女	2012.8.6	血便	便	2012.8.23
腸管出血性大腸菌(O111:HUT VT1,2)	1	男	2012.8.10	無症状	便	2012.8.31
腸管出血性大腸菌(O111:HUT VT1,2)	1	男	2012.8.10	無症状	便	2012.9.4
腸管出血性大腸菌(O111:HUT VT1,2)	1	男	2012.8.10	無症状	便	2012.8.30
腸管出血性大腸菌(O111:HUT VT1,2)	1	女	2012.8.10	無症状	便	2012.8.31
腸管出血性大腸菌(O111:HUT VT1,2)	1	男	2012.8.10	無症状	便	2012.9.4
腸管出血性大腸菌(O157:H7 VT2)	60歳代	男	2012.8.10	無症状	便	2012.8.23
腸管出血性大腸菌(O157:H7 VT2/O157:H7 VT1,2)	20歳代	女	2012.8.11	無症状	便	2012.8.23
腸管出血性大腸菌(O111:HUT VT1,2)	30歳代	男	2012.8.12	無症状	便	2012.9.4
<i>Salmonella</i> Stanley (O4:d:1,2)	2	女	2012.8.9	発熱(39.0℃)、下痢	便	2012.8.16
腸管出血性大腸菌(O157:H7 VT1,2)	60歳代	女	2012.8.13	下痢、嘔気、嘔吐、血便、腹痛	便	2012.8.23
<i>Salmonella</i> Stanley (O4:d:1,2)	3	女	2012.8.9		便	2012.8.20
<i>Salmonella</i> Thompson(O7:k:1,5)	2	男	2012.8.13	発熱、下痢	便	2012.8.20
<i>Salmonella</i> O4群血清型不明	40歳代	女	2012.8.11		便	2012.8.23
<i>Salmonella</i> Miyazaki (O9:l,z13:1,7)	不明	男	2012.8.14		便	2012.8.22
腸管出血性大腸菌(O111:HUT VT1,2)	1	女	2012.8.8	下痢	便	2012.9.4
<i>Salmonella</i> Singapore (O7(O6):k:e,n,x)	40歳代	男	2012.8.16		便	2012.8.22
<i>Salmonella</i> Bareilly(O7:y:1,5)	6	女	2012.8.15	発熱(38.0℃)、下痢、血便、腹痛	便	2012.8.22
毒素原性大腸菌(O148:H28 STp)	30歳代	女	2012.8.22	下痢、嘔気、嘔吐、腹痛	便	2012.9.4
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	1	男	2012.8.1	無症状	便	2012.8.30
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	1	女	2012.8.1	無症状	便	2012.8.30
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	2	女	2012.8.2	無症状	便	2012.8.30
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	1	女	2012.8.6	無症状	便	2012.8.30
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	2	女	2012.8.8	無症状	便	2012.8.30
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	0	男	2012.8.31	気管支炎	咽頭ぬぐい液	2012.8.31
<i>Salmonella</i> Singapore (O7(O6):k:e,n,x)	2	男	2012.8.20		便	2012.8.30
<i>Salmonella</i> diarizonae (IIIb)	1	男	2012.8.20		便	2012.8.31
<i>Salmonella</i> Manhattan(O8(O6):d:1,5)	9	男	2012.8.23		便	2012.8.30
<i>Salmonella</i> Thompson(O7:k:1,5)	0	男	2012.8.23	発熱(37.7℃)、下痢、粘血便	便	2012.8.30

○ 8/10～8/28に32名の検査依頼があり、腸管出血性大腸菌(EHEC)が17名から18株、サルモネラ属菌が12名から12株、毒素原性大腸菌、百日咳菌、ビブリオ属菌の*Vibrio furnissii*が、それぞれ1名から1株分離された(同一患者からの複数検出例あり)。

○ EHECによる集団感染事例が発生した。起因菌はそれぞれO111、O26で、いずれも国内において報告が多い血清型である。EHECは重症化するとHUSや脳症を引き起こし、場合によっては死に至ることもあるが、その一方で、大半が無症状であることも知られている。しかし、無症状保菌状態でも菌の感染力は失われていないため、EHECが検出された場合は症状が無くても除菌が求められる。

○ サルモネラ属菌の検出報告が増加している。今年度分離されたサルモネラの報告数は、9月4日現在27件であり、これはH23年度の報告数に等しい。サルモネラ属菌の発病までの潜伏期は通常6～48時間で、主症状である下痢や腹痛、嘔気、嘔吐に加えて、発熱が見られるのが特徴である。感染経路としては、大半が加熱不十分な食品であるが、ペットから感染したと考えられるケースも見られる。

宮崎県 感染症情報

(71定点医療機関)

2012年 第35週(08月27日～09月02日)

疾病名		第34週	第35週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	1	1	1								
	定点あたり	0.02	0.02	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	68	177	89	11	27			7		41	2
	定点あたり	1.89	4.92	8.90	1.83	6.75	0.00	0.00	1.75	0.00	10.25	2.00
咽頭結膜熱	報告数	27	21	1	1	9	8				2	
	定点あたり	0.75	0.58	0.10	0.17	2.25	2.67	0.00	0.00	0.00	0.50	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	52	46	10	4	19	1		5	2	2	3
	定点あたり	1.44	1.28	1.00	0.67	4.75	0.33	0.00	1.25	2.00	0.50	3.00
感染性胃腸炎	報告数	201	159	28	39	1	28	29	8	4	17	5
	定点あたり	5.58	4.42	2.80	6.50	0.25	9.33	9.67	2.00	4.00	4.25	5.00
水痘	報告数	22	28	15	3	3	1	3	2		1	
	定点あたり	0.61	0.78	1.50	0.50	0.75	0.33	1.00	0.50	0.00	0.25	0.00
手足口病	報告数	88	93	12	43	7	4	4		4	17	2
	定点あたり	2.44	2.58	1.20	7.17	1.75	1.33	1.33	0.00	4.00	4.25	2.00
伝染性紅斑	報告数	1	1		1							
	定点あたり	0.03	0.03	0.00	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	50	57	15	4	17	9	5	6		1	
	定点あたり	1.39	1.58	1.50	0.67	4.25	3.00	1.67	1.50	0.00	0.25	0.00
百日咳	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	105	65	9	11	18	9	3	2	1	11	1
	定点あたり	2.92	1.81	0.90	1.83	4.50	3.00	1.00	0.50	1.00	2.75	1.00
流行性耳下腺炎	報告数	36	32	8	18	1			1		4	
	定点あたり	1.00	0.89	0.80	3.00	0.25	0.00	0.00	0.25	0.00	1.00	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	13	16	10	1	5						
	定点あたり	2.17	2.67	3.33	0.50	5.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数	1										
	定点あたり	0.14	0.00		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数	1	3			1			2			
	定点あたり	0.14	0.50		0.00	1.00	0.00	0.00	2.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:6

上段:報告数
下段:定点当り報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2012年第1週～35週)

2類感染症	結核	165例(5)					
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	50例(5)					
4類感染症	A型肝炎	2例	つつが虫病	13例	デング熱		1例
	日本紅斑熱	7例	レジオネラ症	4例			
5類感染症	アメーバ赤痢	1例	ウイルス性肝炎	2例	急性脳炎		7例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2例	後天性免疫不全症候群	2例	梅毒		2例
	破傷風	2例	麻しん	1例(1)			

()内は今週届出分、再掲